

源兵衛川 かんがい遺産登録

「三島から世界の宝」

地元喜び

三島市中心部を流れる源兵衛川が八日夜、国際かんがい排水委員会(本部・インド)の「世界かんがい施設遺産」に登録されることが決まった。登録は県内では深良用水(裾野市など)に続く二件目。地元の関係者は「三島の宝が世界の宝にランクアップした証し。価値が認められ誇りに思う」と喜んでい

源兵衛川は室町時代後期に築造され、水源である楽寿園内の小浜池から中郷温水池までの全長一・五キロのかんがい用水路。冷たい雪解け水の温度を池で上げた後、周辺の水田に配水しており、「水の都・三島」の象徴的な存在になっている。高度経済成長期には、企業が地下水をくみ上げたのが原因で湧き水が激減し、汚染された。一九九〇年代に親水公園として整備され、市民が一丸となって懸命に維持管理をしたことで、かつて



源兵衛川の保全活動について説明する渡辺豊博さん(三島市内)



の美しい環境が取り戻された。世界かんがい施設遺産は百年以上の歴史がある農業用施設を現在も使っていることが条件。農林水産省が国内事務局になっている。登録申請は昨年五月、三島市と地元の中郷用水土地改良区、NPO法人グラウンドワーク(GW)三島の三者で行った。

三島市の豊岡武土市長は「川の歴史や有用性を再認識し、な

た。GW三島専務理事の渡辺豊博さん(左)は「地域の発展を支えただけでなく、歴史や文化的な側面も評価された」と感慨深げ。「登録を弾みにグローバルな活動を展開したい」と語った。

「登録申請は昨年五月、三島市と地元の中郷用水土地改良区、NPO法人グラウンドワーク(GW)三島の三者で行った。」とコメントを出した。(佐久間博康)

た。昨年は保留で継続審査になった。河川の構造などの説明を加えて書類を再び提出し、二度目の挑戦を受けた。